



駒澤会だより

第12号

(2009年7月25日)

駒澤大学駒澤会発行

駒澤会 新名誉会長、副会長 紹介

平成21年4月より、駒澤大学当局人事交代に伴い、駒澤会名誉会長・名誉副会長に次の方々が就任されました。

たなかりょうしょう

田中良昭 名誉会長

総長

本学仏教学研究科修了
駒澤大学名誉教授 76歳

いしいきよずみ

石井清純 名誉副会長

学長

本学仏教学研究科修了
仏教学部教授 50歳

さいとうただし

齊藤正 名誉副会長

副学長

経済学部教授 58歳

しみずふみお

清水文夫 名誉副会長

事務局長

本学法学部卒業 60歳



《 CONTENTS 》

- P1 名誉会長・名誉副会長紹介
- P2 名誉会長就任の挨拶・基金運用状況のお知らせ
- P3.4 委員総会開催
- P5.6 初夏の親睦会報告
- P7 新年賀詞交歓会報告
- P8 会員紹介
- P9・10 禅文化歴史博物館所蔵品紹介
- P11 事務局からのお知らせ
- P12 編集後記



禅研究館

名誉会長就任のご挨拶

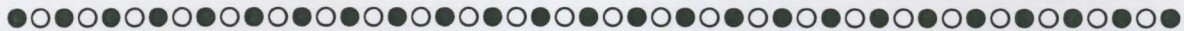
総長 田 中 良 昭

駒澤会の皆さま、初めまして。私は本年4月23日付をもって学校法人駒澤大学総長に就任し、駒澤会名誉会長という重責に就かせていただきました。6月6日の「駒澤会初夏の親睦会」におきまして、駒澤会の役員及び維持会員の皆さまにお会いしましたが、この場をお借りして改めてご挨拶申し上げます。

日頃は本学在校生に対し、奨学金の支給という慈愛溢れるご支援をいただき、深く感謝いたしております。私が仏教学部で教鞭をとっていた頃もこの会の活動については存じておりましたが、改めて『駒澤会のあゆみ』を拝見させていただき、40年近くに亘る皆さまのさまざまな活動の軌跡を知るに及び深い感銘を受けております。昭和46年の創立時における大学の発展興隆と教育効果の向上に寄与したいとの先人の思いが、今日まで絶えることなく皆さまの心の中に生き続け、また、それを次の世代へと引き継いでこられた先輩諸氏のご苦勞が、今日の駒澤会を支えていることと思います。その間多くの学生が駒澤会の恩恵に預かり、無事学業を修めていることは言うまでもありません。

禅の精神に基づく建学の理念を持つ駒澤大学で伝授された知識や技術は、やがて社会において活躍する卒業生一人ひとりの精神や肉体の根幹を成すものと確信しております。駒澤会の皆さまのお力は、この建学の理念を一層具体化するためにも欠かすことの出来ない貴重なものであり、今後も絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、役員の皆さまの日頃の運営のご尽力に感謝申し上げますと共に、入会いただきましたご父母のご芳志に対し、重ねて厚く御礼申し上げます。



駒澤会基金運用状況のお知らせ（基金管理委員会）

基金管理委員会では、昨年度の活動として、基金の運用・管理をベースに「基金管理の基本方針の検討・確認」、「会報を通じて運用状況の報告」を実施して参りました。

また、役員会メンバー全員が参加する事により効率的でスピーディな運用管理が出来るよう規程の一部を、総会の承認を得て改正致しました。

今年度も引き続き、会報による運用状況の報告を考えておりますが、基金の運用・管理につきまして会員の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

運用先	12月～6月までの利金	備 考
日興コーディアル証券	76,000	105回放送債
三菱UFJ証券	530,596	グローバルソブリンオープン (毎月決算型)
みずほ銀行	27,647	定期預金利息
合 計	634,243円	

平成21年度委員総会開催

平成 21 年 5 月 23 日 駒澤大学駒澤会委員総会が田中名誉会長のもと大学本部棟 6 階会議室で午後 2 時より開催された。

夏日を思わせる様な暑い日ではあったが多くの会員が参加された。

名誉会長・名誉副会長（3 名）が 4 月に交代した為、総会開始にあたり田中教育振興部部長より各氏の紹介があった。

名誉会長に就任された田中良昭総長より、日頃の駒澤会の活動に対する感謝と今後も継続した大学への支援を願う旨挨拶があった。

名誉会長がご都合により退席された後、総会議題に入り、例年のごとく議事が進行された。

20 年度 各部活動報告が各部長より報告され、20 年度の決算報告及び基金管理状況報告が井上副会長（基金管理委員会委員長）より、その後監査報告があり、順調に承認された。

議題は進行し 21 年度の各部活動計画・21 年度予算案が発表された。

総務部は前年度から継続した規程の整備や、活動予算の儉約に努めた運営が実行されるよう一丸となった取り組みを継続する。広報部は学園通信・ホームページ・教育後援会「会報」を利用したの広報活動に取り組み、会員への情報提供として重要となった「駒澤会だより」を発行する。

（21 年度からは新規賛助会員への発送も決定した）

厚生部は、会員相互の懇親が一層充実するよう、本年度も日帰りや一泊の企画をし、駒澤会の活動を盛り上げてくれる。



受付 久野、吉備副部長



委員総会の様子



田中名誉会長



田中教育振興部長



三崎総務部長(左)



森屋厚生部長 (中央)



鈴木広報部長(右)



磯田会長、田中総長



井上副会長



吉田、三宅監査

21年度予算案で顕著であったのは予算費用の支出項目での支出削減が最大限に考慮されていた内容であった事である。厳しい経営状況を乗り越える為の役員が良く分かった。駒澤会を安定して運営・活動していくには会員増強を最大の目標としなければならないと感じた。

予算案発表の後の質疑応答で、現状の経済状況を考慮して基金決済時期について意見交換があったが、基金管理委員会に付託することで議長決済され承認された。

規程改正・その他諸事項が報告され全てが異議なしで承認され予定時間より早めに総会を終了できた。

総会後は大学会館2階にて懇親会が開かれた。新入会員が3名出席され、紹介されたがもっと多くの新会員の出席が増え、委員総会・懇親会とも大いに盛り上がることを望む。

(総務部 宮前 享司)



懇親会司会 三崎部長



乾杯 赤堀副会長



閉会の言葉 村田副会長



初夏の親睦会報告

6月6日(土)午後6時30分より、ホテルニューオータニにて、「初夏の親睦会」が行われました。

大学側より田中良昭総長（名誉会長）、石井清純学長（名誉副会長）、清水文夫事務局長（名誉副会長）が出席、また、教育後援会千葉宏隆会長（駒澤会参与）も出席され、総勢34名で盛大かつ和やかに開催されました。

<式次第>

開会の挨拶：磯田会長

名誉会長、名誉副会長紹介：森屋厚生部長

花束贈呈：赤堀副会長

参与紹介

田中教育振興部長挨拶

乾杯：井上副会長

閉会の挨拶：村田副会長

記念撮影



<挨拶内容(抜粋)>

—磯田会長—

今後も駒澤会は、在校生への奨学金提供や会の親睦を図り、駒澤会に入会してくださる方々を増やし、駒澤大学のますますの繁栄をバックアップしていきたいとの挨拶がありました。

—田中総長—

駒澤大学大学院仏教学専攻博士課程満期退学、本学名誉教授を経て、平成21年4月23日付駒澤大学総長（駒澤会名誉会長）に就任

駒澤会会員の大学に対する愛情、また、在校生への奨学金支援に対する感謝の言葉が述べられ、昨年来からの学内事情を踏まえて、伝統ある駒澤大学の一層の発展に尽力していきたい旨語られました。

—石井学長—

駒澤大学大学院仏教学専攻博士課程満期退学、本学で教鞭をとり、平成21年4月1日駒澤大学学長に就任

総長・学長・事務局長が4月から新たに就任しました。損失問題でマイナスからの出発となり一番苦しいときですが、全力で乗り越えて行きたい。今後とも在校生・ご父母の皆様にご安心してもらえよう、教職員全員が襟を正して、一つ一つの課題に取り組み努力していきたい旨語られました。

—清水事務局長—

本学法学部卒業。平成 21 年 4 月 1 日駒澤大学事務局長に就任

教務部、人事部、経理部などの業務経験を活かし、今後も確実に誠実に任務を遂行していきたいとの挨拶がありました。

—田中教育振興部長—

駒澤会の活動の目的は在校生への奨学金提供であります。会員同士の親睦もとても大切なことと考えています。会員数の減少は続いてはいますが、今後も会員を増やす努力をしていただきたいとの挨拶がありました。

続いて、井上副会長の乾杯により懇談の時間となり、総長はじめ当局の方々と談笑しながら、和気あいあいと過ごすことが出来ました。

今後も親睦の機会をつくり、教育後援会のご父母の皆様が駒澤会の意義を理解され、一人でも多くの方に入会していただき、駒澤大学の発展に会員一同力を注いでまいりたいと思います。

広報部副部長 荒井喜久子

